

「砦」を歩く

陽春の候、みなさまには「吉祥」にてお過しのこと事とお慶び申し上げます。この度は廣田鑑賞会にご入会いただき、誠にありがとうございますとさせていただきます。本年度もみなさまのご期待に添えるよう精進し、大曲にも挑戦してまいりたい存じます。

過日、「砦」の舞合、九州芦屋の里、福岡県遠賀郡芦屋町()に行つてまいりました。八幡東区にある皿倉山は標高623メートル。このあたりでは際立って目につく高い山です。「この山の杉を船の帆柱にして神功皇后が大陸に向けて船出した」といふ謂れがあり、地元では帆柱山の呼び名のほつがなほみ深いところです。ケーブルとリフトを乗り継いだ山頂からは、遠く本州下関の関門海峡を望み、若戸大橋のかかる八幡の工業地帯、遠賀川河口の芦屋地区の回りつには種々を見渡す、三六〇度の広大な景色が眼下に広がります。芦屋の遠望を眼に残したまま帆柱山をくだり、唐冠島本線に乗って水巻の駅に降りました。

一歩駅を出ると田園地帯が広がる静かな風景が遠賀川まで続きます。日本武尊と砦姫命を祭神とする川近くの八劔神社と隣接する浄土宗長専寺には、二人がこの地で出会い、一子を設けた「砦姫伝説」と「能「砦」の碑がありました。古代の伝説と「能「砦」のなかりは、はつきりとはわかりませんが、神社の入り口近くには「稲作発祥の地」の碑もあり、また、駅北側の水巻資料館ではかつてこの地方が恵まれた農作物や後世の鉱山で賑わった歴史などにふれ、時代を経たて、芦屋の繁栄に想いをよぎることができました。

初めて訪れたこの地は、思っていたより本州に近いものでした。瀬戸内海から関門海峡を渡って洞海湾をふき抜ける風の音を、芦屋で独り待つ砦の女性は、都からの恋しい便りのように聞いたのではないかとさえ感じました。お忙しいとは存じますが、皆さまの「高覧」を心よりお待ちしております。

平成十七年 卯月吉日

廣田 幸稔

皿倉山にて



八劔神社



長専寺